

体験の風をおこそう 子ども体験ひろば①

「出雲ドーム de スポーツ&健康フェスティバル2018」

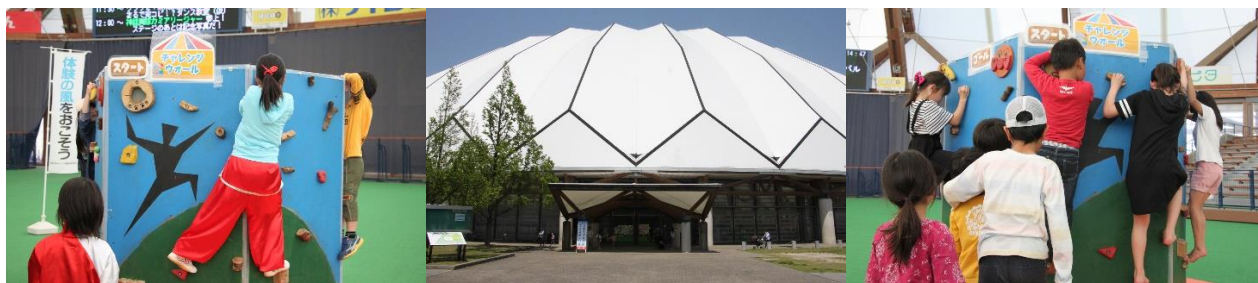
期 日 平成30年4月28日(土)

場 所 出雲ドーム

参加者数 564名(子供394名 大人170名)

内 容 チャレンジウォールキッズ

- 成 果・天候も良く、大勢の来場者で溢れた。交流の家のブースも大好評で、子どもたちが途切れることなく訪れた。チャレンジウォールキッズは、繰り返し挑戦できて、参加者自身が上達を実感できる、よいプログラムだと改めて感じた。
- ・施設紹介の資料等を配布し、PRを行った。家族連れが興味深そうにチラシを持ち帰る姿が見られた。
- 課 題・交流の家でのボルダリング体験がどのようなものか説明できるよう、所内での明確なルールの確認や資料があるとよいと感じた。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば②「伊ワミ村田製作所・グリーンフェスティバル」

期 日 平成30年4月28日(土)

場 所 (株)伊ワミ村田製作所

参加者数 175名(子供124名 大人51名)

内 容 カブラ、キッズ体育

- 成 果・幼児向けマット数種類用意し、体験コーナーを広い芝生の上に設けたことで、子ども達がコミュニケーションをとりながら自由な発想で安全に遊ぶことができた。
- ・ファミリーで交流の家が利用できるメリットを積極的にアピールすることができた。
- 課 題・フェスティバル全体として、コンセプトを共通理解した上で出展する必要性を感じた。



みんなでカブラを積み上げて、カブラタワーを作っていました。



芝生の上でいろんな形状のマットを飛んだり、潜ったりしていろいろな動きで楽しんでいました。



他の出展ブースとも交流し、今後の事業、ブース出展に活かすことができました。

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば③「サン・レイク 春のフェスティバル」

期 日 平成30年5月13日（日）9：30～15：30

場 所 島根県立青少年の家サン・レイク

参加者数 310名（子供231名 大人79名）

内 容 チャレンジウォールキッズ（ボルダリングボード）

成 果・パンフレット等を使用し、家族に積極的に交流の家の広報を行うことができた。
・上手にできずに悔しがる子どもがいたが、失敗しても何度も挑戦する姿が見られた。

課 題・当日天候が雨だったこともあり、来場者が非常に少なかった。オープンデーのコンセプトが変更になっていたことも影響したようだが、その変更を当日知った。事前にサン・レイクの担当者と時間をかけて打ち合わせを行い、情報を収集すべきであった。



入り口に施設名の入ったのぼり旗、地域イベント情報誌「いわみん」を置いた。



移動式ボルダリングボード「チャレンジ・ウォールキッズ」を出し、体験してもらった。



学生スタッフがサポートをしてくれ、安全に実施することができた。

体験の風をおこそう 子ども体験ひろば④ 島根県立少年自然の家『オープンデー』

期 日 平成30年5月12日（土）

場 所 島根県立少年自然の家

参加者数 850名（子供501名 大人349名）

内 容 チャレンジウォールキッズ

成 果・入り口近くの駐車場にチャレンジウォールキッズのブースを設けることができたため、全ての来場者に目を向けてもらうことができた。天候に恵まれたため、大勢の来場者に交流の家のボルダリングについて知ってもらうことができた。
・「いわみん」にボルダリングのプログラムが掲載されていることを、来場者の方から聞いた。様々な広報により、交流の家のアピールができていいることを感じる事ができた。

課 題・チャレンジウォールキッズを子ども体験ひろばで広めることが、交流の家のボルダリング体験につながるように、指導や活用の方法を検討する必要がある。



ブースの設置場所



しまねっこもチャレンジキッズウォールに挑戦！！



チャレンジウォールキッズを楽しむ子どもたち

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑤ 「あすてらすフェスティバル」

期 日 平成30年6月16日（土）9：30～15：30

場 所 島根県立男女共同参画センター あすてらす

参加者数 98名（子供20名 大人78名）

内 容 カローリング

成 果・家族に対してパンフレット等を使用し、積極的に交流の家の広報を行うことができた。
・上手にできずに悔しがっている子どもがいたが、失敗しても何度も挑戦する姿が見られた。

課 題・当日天候が雨だったこともあり、来場者が非常に少なかった。オープンデーのコンセプトが変更になっていた影響もあったようだが、その変更を当日知った。サン・レイクの担当者と連絡を密にとり、丁寧に事前の打ち合わせを行うべきであった。



初めて出会った子ども同士も互いに協力してカプラタワーなどを作りました。



子ども達が自由な発想で、マットの上でバランスをとったり飛んだりして楽しんだ。



カプラで遊んでいた子供が石見銀山テレビの取材を受けました。

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑥「大田市秋の彼岸市」

期 日 平成30年9月23日（日）～24日（月）

場 所 大田市駅通り周辺

参加者数 1,250名（子供810名 大人440名）

内 容 チャレンジウォールキッズ、カプラ

成 果・チャレンジウォールキッズを中心に、多くの来場者に体験活動を提供することができた。
・3週間後の「さんべ祭」や今後の事業についてのチラシを配布し、PRした。
・広報資料をマスコットキャラクターの「べえくん」の近くに配置することで、記念撮影をする家族連れを中心にチラシを持ち帰る機会を確保することができた。

課 題・開催時期として10月の「さんべ祭」の貴重な広報機会である。連携団体と協力した出展も含めて、より効果的に「さんべ祭」の広報活動を行うことができるよう、実施内容や人員配置について検討する必要がある。



チャレンジウォールキッズ



カプラ

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑦「イオンモール体験ブース」

期 日 ①平成30年11月17日（土） 場所：イオン松江ショッピングセンター店

②平成30年11月18日（日） 場所：イオンモール出雲店

参加者数 ①2,046名（子供1,327名 大人719名）

②2,413名（子供1,438名 大人975名）

内 容 レザークラフト（島根県立青少年の家 サン・レイク）

目玉っちキーホルダー、ぶんぶんゴマ（島根県立少年自然の家）

チャレンジウォールキッズ（国立三瓶青少年交流の家）カブラ（3施設共通）

成 果・大型の商業施設と連携することで、大変多くの方にプログラムの提供と広報活動を行うことができた。

課 題・チャレンジウォールキッズで使う、ボルダリングボードが一部破損した。強度を高める工夫を行うことに加え、予備部品の準備をしておくことを検討する必要がある。



体験ブースは大盛況でした。



親子でカブラを楽しんでいました。



お母さんも協力して、手や足を置く位置を指示していました。

体験の風をおこそう 子ども体験ひろば⑧「みすみフェスティバル」

期 日 平成30年11月10日（土）

場 所 三隅中央会館

参加者数 569名（子供450名 大人119名）

内 容 カブラ、ディスクッター

成 果・天候も良く、大勢の来場者があった。交流の家のブースは、体育館の中ということもあり、初めは参加者もまばらだったが、徐々に増えていった。ステージPRを行ったことや、周遊スタンプラリーの対象ブースにしてもらったことが良かったと思う。

課 題・会場が遠方ということもあり、準備が早くでき、楽しんでもらえるものを用意した。当初は、当日準備も考えたが、移動時間や会場の混雑を考えると、前日の準備にしてよかった。2日開催の初日のみの出展としたが、この週末は所内も利用者が多く、主催事業もあり、対応が大変な日だった。直前の調整は難しいが、来年度の参考とした部分である。



体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑨「しまねふるさとフェア」

期 日 平成31年1月19日（土）～20日（日）

場 所 旧広島市民球場跡地

参加者数 2,440名（子供1,214名 大人1,226名）

内 容 カプラ、まが玉づくり

成 果・島根らしい創作活動である「まが玉づくり」を行い、島根の良さをアピールすることができた。

・ファミリーに施設の設備や提供プログラム、事業の広報を積極的に行った。この活動が事業の参加申し込みにつながるなど、新たな利用者の獲得につながった。

課 題・大変多くの来場があった上、製作に要する時間が長いため、作業する席の確保が困難であった。また、屋外での作業ということで、風が吹くと削った粉が飛散する等の影響があった。より良い環境で体験をしてもらうための工夫が必要である。



所長をはじめ、職員全員で積極的に広報を行いました。



みんな集中してまが玉づくりに取り組んでいました。



天気に恵まれたこともあり、テントの前にカプラを出し、より多くの人に体験してもらいました。

体験の風をおこそう 子どもの体験ひろば⑩「さんべ志学の雪あかり」

期 日 平成31年2月10日（日）

場 所 三瓶山西の原（山の駅さんべ前）

参加者数 522名（子供322名 大人200名）

内 容 ディスゲッター、キッズ体育

成 果・山の駅さんべの雪遊び広場にて、ディスゲッターと幼児向けマット用意し、体験ひろばを設けた。雪像づくりや、そり遊びで参加された方にも体験ひろばを提供することができた。

・今年から会場が西の原に変わり、志学の町だけではなく、三瓶周辺地域のイベントと変わる中、交流の家も地域の一環としてサポートすることができた。

課 題・昨年に続き、交流の家に宿泊し「雪あかり」に参加される方もいるので、HPやFacebookで交流の家でも広報を行うことで、参加者増加につなげたい。



LEDを使ったイルミネーション。



雪像コンテストでは、かわいい作品がたくさん。



積雪が少ない中、三瓶山麓から集められた雪で作られた雪灯籠。